

インド、0.4%のサプライズ利上げを実施 長期的な経済成長のためインフレ抑制を優先

- インド準備銀行（中央銀行、RBI）は5月4日に金融政策決定会合を緊急で開催し、政策金利を3年9ヵ月ぶりに0.4%引き上げることと決定しました。米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げを先取りするタイミングでのサプライズ利上げとなりました。RBIの動向、市場の反応、今後の見通しについて解説いたします。

▶ 長期的な経済成長のためインフレ抑制を優先

- RBIは5月4日に金融政策決定会合を緊急で開催し、2018年8月以来3年9ヵ月ぶりに、政策金利であるレポ金利を0.4%引き上げて4.4%とすることを決定しました。同日インド時間夜の米連邦公開市場委員会（FOMC）直前でもあり、サプライズとなるタイミングでの利上げとなりました。
- RBIは4月の金融政策決定会合において、2022年の消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比、インフレ率）予想を5.7%としていますが、3ヵ月連続でRBIのインフレターゲットである4%±2%（2%～6%）の範囲を上回る水準で推移しています。RBIの声明においても現在のインフレが長期的な経済成長に対する脅威となる可能性を指摘するなど、インフレへの警戒感が今回の利上げの背景にあるとみられています。

▶ 市場の反応

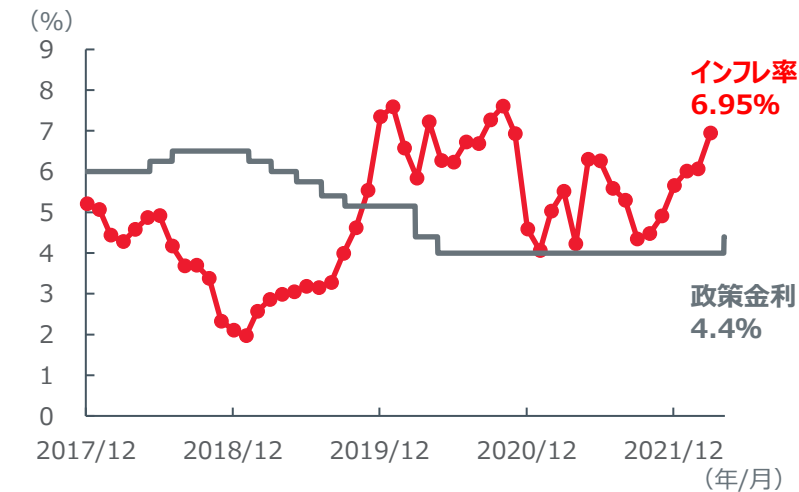
- サプライズとなる利上げを受けて、4日当日のインド株式市場（SENSEX指数）は前営業日比2.3%のマイナスとなりました。債券市場は10年国債利回りが7.38%まで大幅上昇するなど、短期金利、長期金利ともに大幅上昇、為替はインドルピー高に反応しました。5日のインド株式市場は、前日インド時間夜にパウエルFRB議長が記者会見において「大幅な利上げは積極的に検討していない」と発言したことから、買い安心感が広がり小幅ながら上昇しました。

▶ 今後の見通し

- 来週発表予定のインドのインフレ率は7%台に上昇することが予想されており、RBIのインフレ見通しが楽観的過ぎたとの見方もありますが、一方でこれまでの当面の経済成長支援優先のスタンスから、インフレへの警戒感を修正し、長期的な経済成長支援のためインフレ抑制を優先するスタンスへ変更した点、FRBの利上げを先取りする形で早急に利上げに動いたという点は評価できると考えています。今後の会合においても利上げを継続すると予想しており、インフレ動向には注視が必要と考えています。

【政策金利*とインフレ率**の推移】

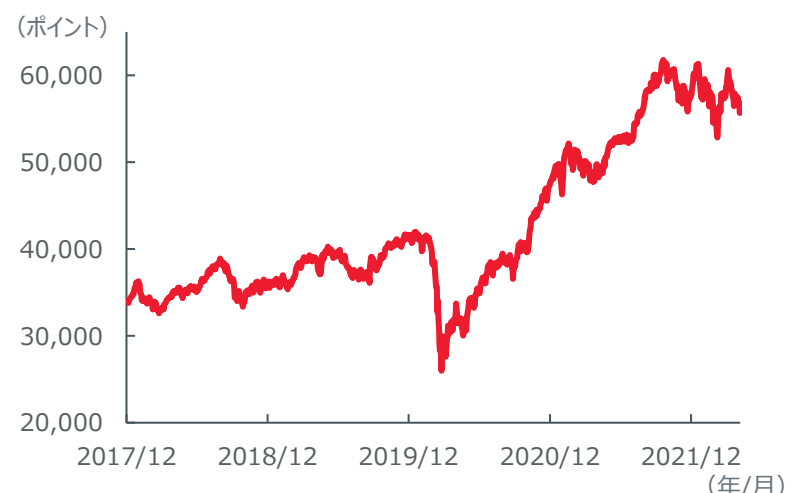
（2017年12月29日～2022年5月5日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。
新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年3月まで。

【SENSEX指数の推移】

（2017年12月29日～2022年5月5日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※配当無し（プライス）、インドルピーベース。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

<当資料に関してご留意いただきたい事項> ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。